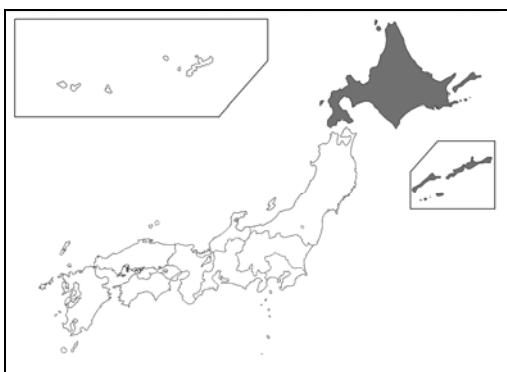


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年2月)	今回(平成26年5月)
景況判断	持ち直し	持ち直し基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる
鉱工業生産	持ち直し	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる
個人消費	緩やかに持ち直し	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている

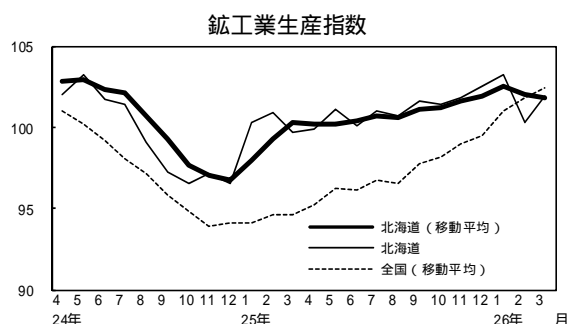
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を下回っている。

1～3月期には、生乳生産は、乳製品向けが減少したため、総量では941,000tと前年比3.5%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が減少したため、前年比50.3%減となった。

(2) 鉱工業生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

1～3月期には、食料品は、バターが生乳不足の影響等から減少した。パルプ・紙は、板紙及び衛生用紙が消費増税前の駆け込み需要等から増加した。電気機械は、前期にスマートフォンや携帯電話向けの無線通信装置が好調だったため、その反動で減少した。鉄鋼は、特殊鉄鋼製品が悪天候の影響により船舶が接岸できず出荷できなかったこと等から減少した。輸送機械は、自動車駆動伝導装置が北米向けの販売が好調であったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
食料品	24.2	0.1	1.3	2.0	0.5	0.6
パルプ・紙	11.9	1.9	3.8	2.5	4.8	7.7
電気機械	11.7	15.7	3.7	1.6	9.2	3.1
鉄鋼	7.5	7.7	10.1	7.2	4.7	1.5
輸送機械	7.0	7.4	8.3	13.9	0.4	7.9
鉱工業	100.0	0.8	0.1	0.7	2.8	1.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

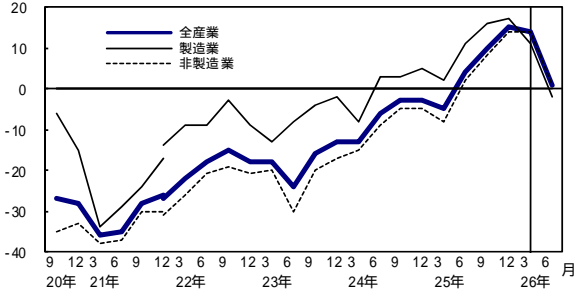
(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月速報値。

2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

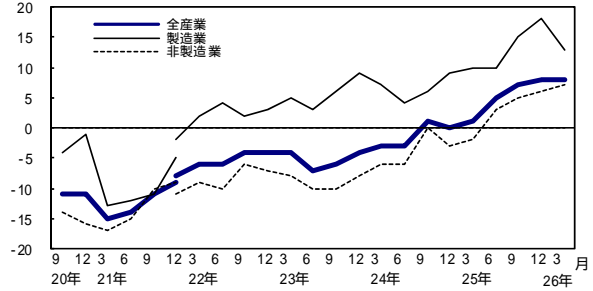
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



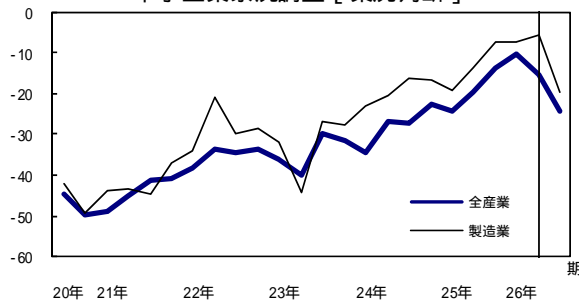
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年6月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



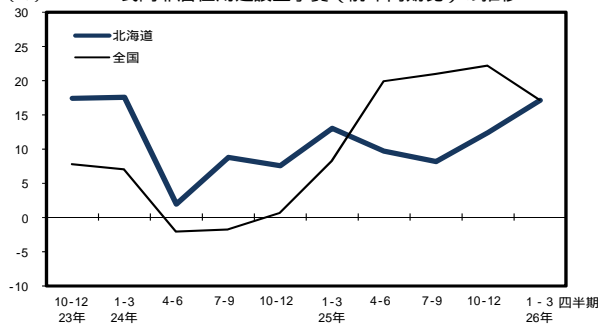
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「売上としては好調だったが、消費税増税前の駆け込み需要の反動減が影響し、販売量が減少している。また、一部の溶接材料が品薄で入手困難であったことも、販売量の減少につながっている(その他非製造業[鋼材卸売])」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

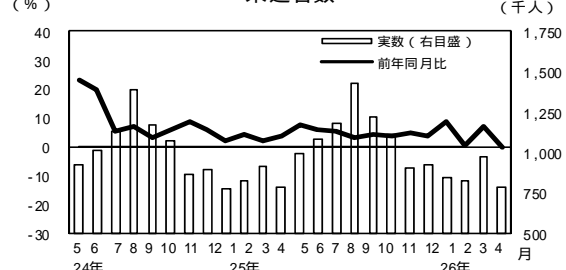
	25年度実績見込み	26年度見込
全産業	7.9(2.4)	0.8
製造業	0.5(5.6)	22.8
非製造業	15.1(0.6)	20.6

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。
2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、増加している。

来道者数は、消費税増税前の駆け込み需要に伴う傾向や、春休み、受験・異動に伴う季節的要素が後押しとなり増加した。

(%) 来道者数 (千人)



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

1月は前月比0.1%増、2月は同2.7%増、3月は同3.6%増となった。

大型小売店販売額

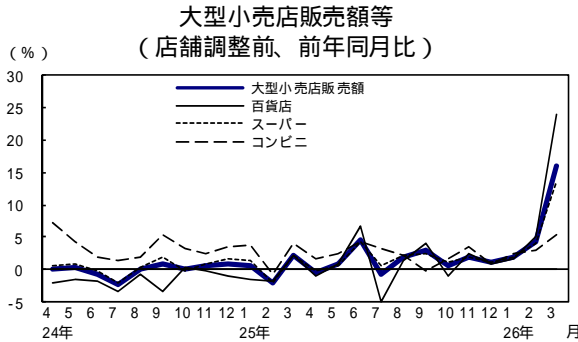
百貨店は、1月は、特選ブランドや宝飾、高級時計などの高額商品が牽引して客単価が伸びた影響等から前年を上回った。2月は、宝飾品や高級時計、特選ブランド、オーダースーツなどの高額商品が消費税増税前の駆け込み需要の影響等から前年を上回った。3月は、特選ブランド、宝飾、高級時計などが消費税増税前の駆け込み需要が一段と強まった影響等から前年を大幅に上回った。

スーパーは、野菜の相場高や、賞味期限の長い加工食品や飲料水が消費税増税前の駆け込み需要の影響等により前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（4月）[家計動向関連（現状）]

北海道地域の家計動向関連DIは、37.3となり前月より15.3ポイント低下した。

「4月1日から消費税が増税されたことで、客の様子が一変した。春物を含めて衣料品の動きが非常に厳しい状況にある。来客数は前年比90%台で推移しているが、売上が大きく減少しており、前年比80%台前半になりそうである（百貨店）」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

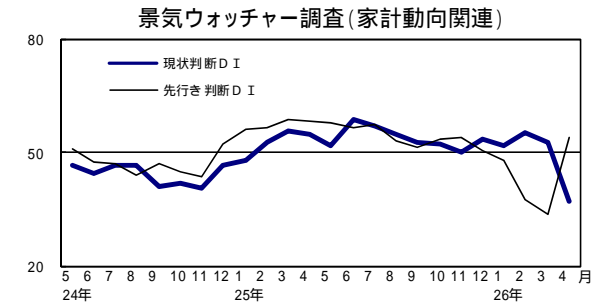
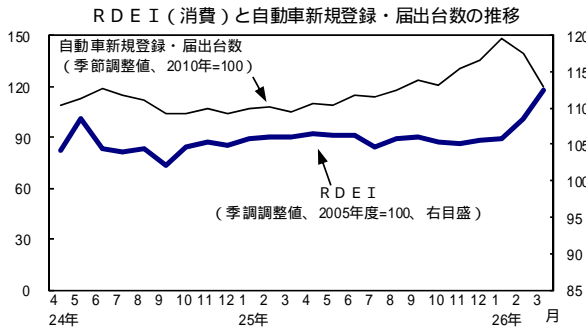


	26年1-3月	26年1月	2月	3月
RDEI（消費*1）	3.4	0.1	2.7	3.6
大型小売店(*2)	7.6	1.9	4.2	16.0
百貨店(*2)	10.7	1.6	5.2	23.9
スーパー(*2)	6.7	2.0	4.0	13.6
コンビニ(*2)	3.6	2.4	2.9	5.4
乗用車(*3)	23.5	38.1	28.7	14.0
(季節調整値)(*3)	5.1	8.8	5.9	13.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

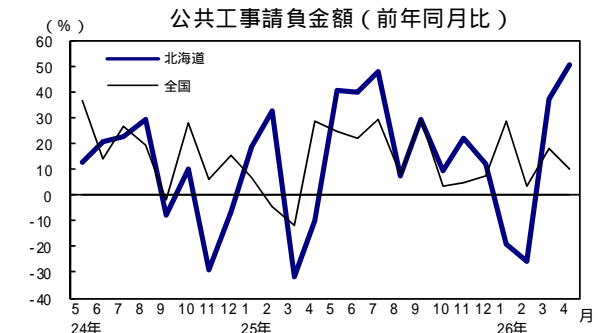
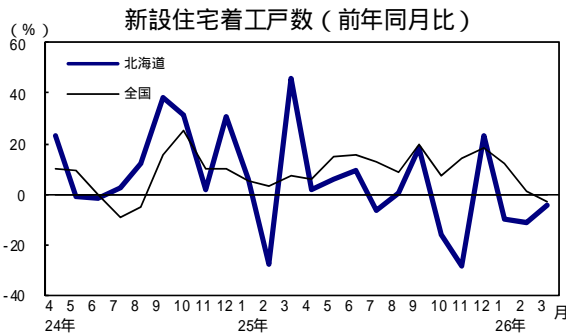
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

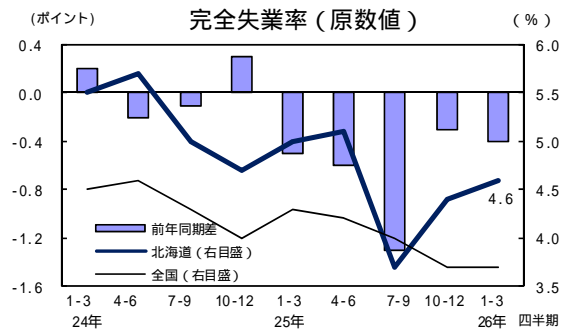
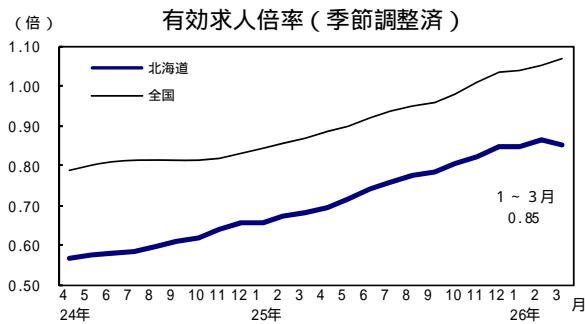


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

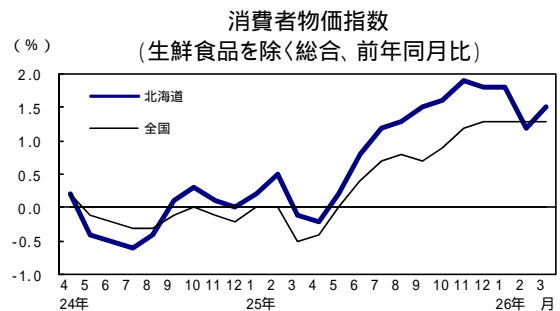
「求人数に関しては、各種景気動向の発表と同じように、年初から底堅く推移しており、経済状況が一段上がっている(求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	26年4月
倒産件数	96	76	69	92	32
(前年比)	22.6	29.6	23.3	16.4	3.2
負債総額	5,284	126	139	157	108
(前年比)	1913.3	13.3	35.7	54.1	97.9



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・平日は相変わらず閑散とした日もあるが、土日は海外旅行、国内旅行の申込が増えている。金額だけではなく、内容重視の相談も多く、結果的に単価の高い商品も売れている(旅行代理店)。

<先行き>

・客の消費税増税に対する意識が非常に強く、特に平日の売上が大幅に落ち込んでいることから、主婦層の買い控えを感じる。被服需要の低さを考慮すると、支出の優先度は低く、先行きの景気が上向きとはならない(衣料品専門店)。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

